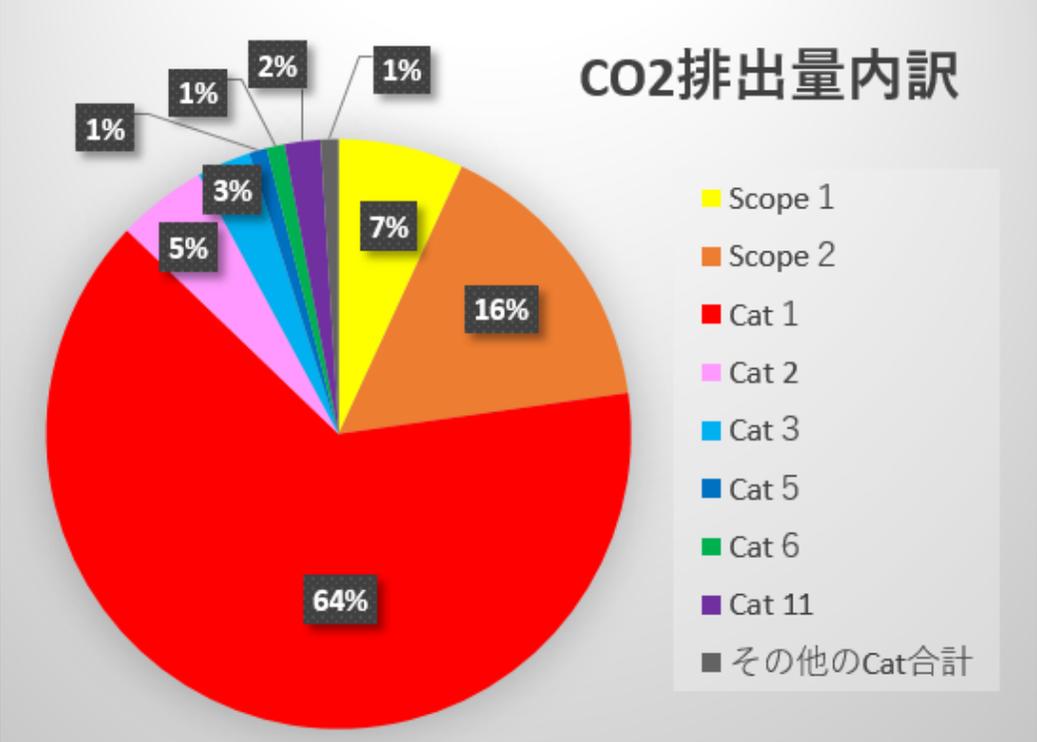


大日本住友製薬株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業（医薬品）● 事業概要：医療用医薬品、食品素材・食品添加物、動物用医薬品、診断薬等の製造および販売【連結】● 事業規模：<ul style="list-style-type: none">・従業員数 6,210名(2018年9月30日現在)【連結】・売上 466,838百万円（2017年度）【連結】
2.削減目標案	<p><Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標案：2030年度に2017年度比で30%削減</p> <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標案：スコープ3 カテゴリ1 排出量の80%に相当するサプライヤーにGHG削減目標を設定させる。</p> <p>*どちらも今後変更の可能性あり</p>

大日本住友製薬株式会社

項目	内容																					
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 25,947[tCO2] 																				
	 <p>CO2排出量内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope 1</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>Scope 2</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>Cat 1</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>Cat 2</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>Cat 3</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>Cat 5</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>Cat 6</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>Cat 11</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>その他のCat合計</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	Scope 1	7%	Scope 2	16%	Cat 1	64%	Cat 2	5%	Cat 3	3%	Cat 5	2%	Cat 6	1%	Cat 11	1%	その他のCat合計	1%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 57,200[tCO2]
	Category	Percentage																				
Scope 1	7%																					
Scope 2	16%																					
Cat 1	64%																					
Cat 2	5%																					
Cat 3	3%																					
Cat 5	2%																					
Cat 6	1%																					
Cat 11	1%																					
その他のCat合計	1%																					
	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 279,777[tCO2] 目標の対象セクター : 																					

大日本住友製薬株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● カーボンプライシングや排出量取引制度が導入された場合、再生可能エネルギーの購入や省エネ設備の導入などのエネルギー関連コストが増加する。 ● 温暖化に起因すると推測される自然災害（豪雨など）により、当社設備などの被害、調達先の被害、交通網の被害（物流や社員の通勤への影響など）が発生しうる。 ● 当社はマテリアリティ（重要課題）の一つとして「気候変動への取組み」を特定している。上記リスクの低減が実現できれば、当社の持続可能性が高まり、投資家などの評価向上に繋がる。 ● 研究開発においては、気候変動による熱帯地域の拡大を考慮し、マラリア治療薬の開発などを実施しており、ビジネス上の機会となる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が2℃目標の水準に整合すると社内外に表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。 ● スコープ3 目標の達成に向けた取組みは、サプライヤーとの関係性強化に繋がり、当社のCSR調達をより充実させることができるものと期待する。

大日本住友製薬株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社環境部門が支援面談を受け、GHGプロトコルを踏まえたSBT認定基準を理解した。バウンダリの設定などに課題が残るものの、本社環境部門で目標案を検討した。2回目の支援面談には担当執行役員も出席し、SBTの理解促進の場として活用した。 ● 2018年11月20日に投資家向けに開催した“ESG説明会”において、2年以内のSBT認定取得を目指すことを社外に表明した。また、2018年12月10日に開催した“社内環境委員会”で各事業場の環境管理統括責任者に対してSBTの内容および今後の2030年度目標策定についてSBT認定取得を目指す旨を説明した。 ● 今後、具体的な目標案について“社内環境委員会”でコンセンサスを形成し、SBT事務局に申請予定。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● バウンダリ（範囲設定）に関し、財務支配力基準における5%除外の範囲を整理し、バウンダリに含まれることになる連結会社に対してSBTの説明を行って理解を得る必要がある。 ● Scope 3の目標設定に関し、社内関係部門（サプライチェーン関係）に対してSBTの説明を行って理解を得る必要がある。